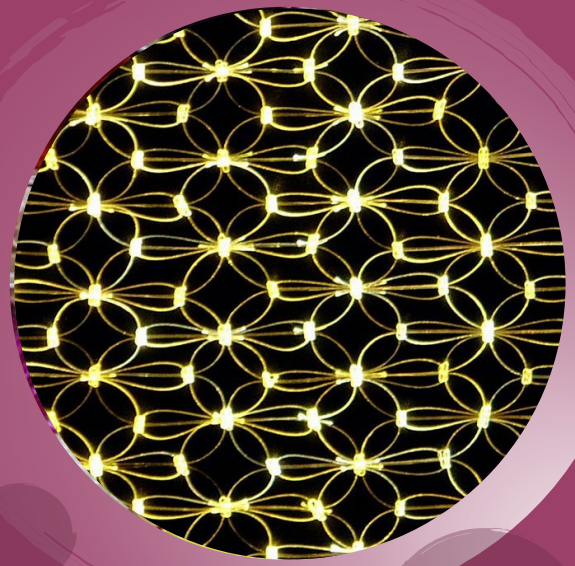
スヌーズレン・Snoezelen

スヌーズレン・Snoezelen とは、1970 年代にオランダの知的障害者の施設の職員であった Jan Hulsegge（ ヤン・フルゼッヘ ） and Ad Verheul（ アド・フェアフール ）が開発し、実践した多重感覚環境を示します。当時の知的障害者の施設の現状は、医療的処置と食事や排泄などの基本的な介護しかされず、1 日の生活の殆どをベッドで過ごし、単調な生活を強いられていました。こうした人の尊厳を失った状況に疑問を持ち、知的障害者の日常生活に楽しみを加え、生活の質を高めるレクリエーション活動として取り組まれる様になりました。スヌーズレンの語源は、「 クンクン匂いを嗅ぐ 」と言う意味のスヌッフェレン（ Snuffelen ）と「 ウトウトする 」と言う意味のドゥズレン（ Doezelen ）が合わさった造語になります。現在では、スヌーズレンの定義としては、「 特別にデザインされた環境の中で、コントロールされた多重感覚の刺激を通して幸福感を産出するものである。」とされています。

嶺研究室とフィルノット

東洋大学・嶺研究室では、2015 年からスヌーズレン器材の研究開発と評価を行ってきました。スヌーズレンの三種の神器には、「バブルチューブ」「プロジェクター」「光ファイバー」と言われており、嶺研究室では、主に「バブルチューブ」の研究開発を進めてきました。その中で 2019 年に株式会社フィルノットより封書が届き、今迄のエンターテインメントの世界で培った技術をスヌーズレンに生かせないかとご相談を受けました。従来のスヌーズレンの「光ファイバー」は、編んだ商品はなく、編むことによって光の表情を変える技術に、スヌーズレン器材への可能性を感じ、共同で商品開発を行うことになりました。

スヌーズレン
Snoezelen



東洋大学
ライフデザイン学部
人間環境デザイン学科
教授　嶺　也守寛
E-mail : mine043@toyo.jp
ISNA 日本スヌーズレン総合研究所・会長

嶺研究室で開発したスヌーズレン器材

スヌーズレン器材は、人が持つ五感（視覚・触覚・聴覚・嗅覚・味覚）を介して癒しに導く様な優しい刺激を与えることが重要です。嶺研究室では、2015 年より主に「バブルチューブ」を中心に研究開発を行ってきました。「バブルチューブ」は所によって「バブルユニット」とも言われておりますが、スヌーズレン器材の中のでも利用者の方に人気の高い器材でもあります。開発したバブルチューブを利用者様がお使い頂く様子を観察したときに、その多く方が楽しみながら精神鎮静してゆく様を見て、バブルチューブの奥深さを感じました。そこには我々が持つ五感を優しく刺激する水の音や振動、水から通す光、上って行く気泡などが私たちの心を落ち着かせる要素があるからです。

現在までに開発したバブルチューブは、

① バブルチューブを 2 重管にして内側に縦列で LED を配置したセンターライトバブルチューブ
② バブルチューブを 2 重管にして内側のアクリル管から LED の光が出て天井に投影できる仕様にしたホールバブルチューブ
③ スヌーズレンルームを確保できない施設や重度障害や長期入院をしてベッドから移動することが困難な子供達のために、ベッドサイドスヌーズレンを実践するための移動式スヌーズレン器材・機関車スヌーズレン
④ 「お届けするスヌーズレン」をコンセプトに島田療育センターと共同で開発した施設外やご家庭に運べる可搬式バブルチューブ
⑤ ブラックライトルーム用のファンタジーバブルチューブ

などです。開発したバブルチューブは、障害者施設や特別支援学校などに設置してご評価頂きましたが大変好評を頂いております。

嶺研究室では、今迄にないオリジナルな発想とデザインでスヌーズレン環境及び器材を開発・提案しております。スヌーズレンで何かご用命がございましたら、いつでもご連絡ください。